

2011年(平成23年)10月7日(金曜日)

中 一 乗 昇

酒米を自主検査

古川の
渡辺酒造店 HPで結果公表

原発事故に伴う食品の放射能汚染への懸念を取り払おうと、飛騨市古川町の渡辺酒造店は、県内外で生産された新酒用の酒米に放射性物質が付着していないかを独自に検査することにした。放射能測定器をすでに購入しており、今月十八日から随時測定する。

県が八、九月に行っ

社からスウェーデン製の測定器一台を購入。十八日に同社の担当者をして測定器の使い方などを学んだ上で、ひだほまれの入荷分を検査する。

た県内産玄米(あきたこまち、たかやまもち、コシヒカリ)の調査では、いずれも放射性セシウムは検出されなかったが、同酒造店が使う県内産酒米「ひだほまれ」は調査対象外だった。同酒造店は、商品を安心して消費してもらおうには自主検査が必要だと判断した。

同酒造店が今季、酒造に使うのは、ひだほまれ約三百二十トと兵庫県産「山田錦」約七十ト、同「愛山」約二十ト。未入荷分も入荷し次第、検査する。検査結果は酒造店のホームページで公表する。(平野誠也)

栃木県の環境調査会